



活動名 気候変動と子どもの権利の関わりを考えよう

本時のめあて

気候変動について子どもの権利の視点からとらえ、自分たちにできることは何か考えよう。

学習活動

指導上の留意点

導入

- 『気候変動って何だろう』と問いかけ、自分の知っている気候変動の例(大雨、猛暑、干ばつ、台風など)をあげ、全体で共有する。

- 導入では、児童が日常生活の中で感じる気候変動の具体例を引き出し、既習事項を想起できるようにする。

展開

気候変動は子どもの権利と、どのような関わりがあるのだろう

- 本時のめあてを全体で確認し、学習の見通しをもつ。
- 『子どもの権利条約って何だろう?』という問いから、権利の基本(すべての人に人権があり、子どもにも守られるべき権利があること)を押さえる。

- おとなにも子どもにも、みんなに人権があることをとらえられるようにする。

思考を促す：気候変動に関わる問題が、子どもの権利をおびやかす可能性があるということを意識づける

- 『[ユニセフ気候変動アクション2025](#)』サイト内の動画『[地球は放置しても育たない](#)』を視聴する。

- 動画視聴時には、焦点化された問いを板書して意識させ、能動的に視聴できるようにする。

- 気候変動の中で、今回は「天候」に焦点を当てて学習することを確認する。

- 動画を視聴し、「気候変動はなぜ問題なのか」や「どのような被害があるのか」について考えながら、メモをとるようにする。

個人

- サイト内の動画・資料・記事を読み、「大雨災害・干ばつ」によって、『どのような問題が生じるのか』を調べ、学習者用端末の協働学習ツール等にメモする

- 協働学習支援ツールを活用し全員の意見を可視化することで、他者の意見を参照できるようにする。

グループ

- 集めた情報をグループで共有する。メモした内容を比較・検討する。
- クラウド上でメモを共有して他者の考えと比較検討する。

- 情報を瞬時に共有できる学習者用端末を活用して、他者と比較検討しながら自分の考えを再構成できるようにする。

全体

- 調べた情報を思考ツール等を活用して、整理・分類。それぞれにタイトルをつける(カテゴリ化)。

- 思考ツールを活用し、児童の考えを可視化し、整理・分析を促す。

終末

- 各カテゴリが『[子どもの権利条約](#)』一覧のどの権利と関わっているかを考え、グループで意見をまとめ、全体で共有する。

- 各カテゴリのタイトルが、「生きる権利・育つ権利」「適切な情報の入手」など具体的な権利に結び付けられるよう支援する。

- 本時のめあてについて振り返る。
- 振り返りを全体で共有し、学びの広がりを感じる。

- 権利とカテゴリとの関連を自分の言葉で説明できるようにする。

板書計画例

めあて

気候変動は子どもの権利とどのような関わりがあるのだろう

気候変動

- 温暖化・大雨・干ばつ
- ゲリラごう雨・台風・**猛暑**
- ヒートアイランド現象

熱波
気温上昇

天候

子どもの権利条約

- 子どもがもつ権利

人権 人としての尊厳が守られ
幸せに生きるための権利

資料



本時の振り返り

- 世界で起きていることが自分たちに関わっている。
- 気候変動が「子どもの権利」と関係することがわかった。
- 雨が降らなくて困っている人がいて、当たり前の生活ができていない。
- 夏は暑くて運動場で休み時間に遊べないことが「子どもの権利」にも関わってくる。